

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 重村雅彦

主査 教授 川口秀明
審査担当者 副査 教授 西村正治
副査 教授 丸藤 哲
副査 教授 筒井裕之
副査 教授 松野吉宏

学位論文題名

分子構造的特性解析による Krebs von de Lungen-6/Mucin-1 の肺胞-血液間動態に関する研究

本論文では、Krebs von de Lungen-6/Mucin-1 (KL-6/MUC1) の分子構造的特性を解析して KL-6/MUC1 の分子構造的特性と肺胞-血液間動態との関係を明らかにした。

審査にあたり、副査丸藤教授から KL-6/MUC1 の肺胞から血中への移行機序に関する質問があった。次に、副査松野教授より MUC1 の分子サイズと KL-6/MUC1 のバンドパターンとの関係についてのコメントと KL-6/MUC1 の分子サイズに影響を与える因子についての質問があった。さらに、副査筒井教授からは肺胞障害の程度と血清中 KL-6/MUC1 のバンドパターンとの関係に関する質問があった。また主査の川口教授よりサルコイドーシス患者の遺伝子多型性と血清中 KL-6/MUC1 のバンドパターンとの関係についての質問があった。最後に、副査西村教授から本研究の位置づけや将来の展望に対するコメントがあった。いずれの質問に対しても申請者は自験データや過去の文献を引用し、概ね適切に回答した。質疑応答の時間は約 30 分であった。

この論文は、1) BALF 中 KL-6/MUC1 の分子サイズに基づくバンドパターンが MUC1 遺伝子多型によって規定されていること、2) 血清中 KL-6/MUC1 のバンドパターンが KL-6/MUC1 の肺胞-血液間動態の影響を受けていること、3) 血清中 KL-6 値は KL-6/MUC1 の分子サイズと肺胞血液関門における移行動態の双方の影響を受けていることを初めて示した点で高く評価され、今後は KL-6/MUC1 を含むあらゆる肺胞上皮由来タンパク質に対する肺胞血液間動態の理解や臨床検査へのさらなる応用が期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。